

これからの「おこづかい教育」とは(前編)



「大人になる前にお金との正しい付き合い方を学んでほしい」と願う親御さんが増えています。最近では小学校の课外授業でも取り扱われることも多くなった金銭教育ですが、その主体は家庭が中心になります。今回は、両親あるいは祖父母の立場でおこづかい教育に関わる際に、考えておきたいことをまとめます。

金銭教育＝おこづかい教育の目的は、

- ①お金を通して、自分の買えるものを知って、我慢が必要なことを覚える
- ②ムダ遣いをせずに、お金を貯めて自分の欲しいもの(目標)が買える達成感を味わう
- ③そのお金を得るために働いてくれている家族へ感謝する

などがあげられています。ですが、自分の買えるもの＝身の程を知って我慢することが必要なのか、ムダ遣いの定義は何か、汗水たらして働いたお金だけが尊いのかなど、さまざまな考え方が出てきています。

■身の程を知って我慢する

確かに、手元にあるお金以上の買い物をして借金まみれ...というのでは困りますが、子どもには無限の可能性があります。お金は1つのツールでしかありません。お金＝自分の能力・評価ではないことも教えていきたいものです。

■ムダ遣いをしない

そもそもムダ遣いとは何でしょう? 「カードゲームはムダ遣いだから辞めなさい」「お菓子はムダ遣い」など...大人から見たら「ムダ」と思われるものはたくさんあります。ですが、子どもはそこからたくさんを学びます。小さな失敗をたくさんさせてあげること、それが家庭におけるおこづかい教育の役割だと思います。

また、「これはムダ」「あれもムダ」と、大人の価値観を子どもに押し付けてはいないでしょうか? 今は、「お金を使って欲しい人・会社」が世の中に溢れています。お金が社会に流れることで私たちの豊かな生活が成り立っています。ぜひ、覚えておいていただきたいのは「ムダ遣いというお金の使い方は存在しない」ということです。その商品を提供しているお店やメーカーから見たら、「貴重な売上」であり、決してムダ遣いではありません。どんな使い方であれ、そのお金は必ず誰かの役に立っているのです。

もちろん、子どもは世間知らずな部分もありますから、ある程度大人がリードしてあげることも必要ですが、大人が目線から「こういう使い方はよくない」と決めつけてしまうと、自分の意思で判断する・選択することができない子になってしまうかもしれません。お小遣いの中だけでも、子ども自身が「自由に選べる」という権利を与えてあげてください。

■汗水たらして働いたお金は尊い

今はいろいろな職業があります。数分間パソコンに向かっているだけでたくさんの収入を得ている人もいます。働き方が多様化した今、「汗水たらして働く」ことだけが全てではないように思います。しかし、お金は、「誰かの役に立っているからもらえるもの」には変わりません。「家の人の仕事をして稼いだお金の一部をおこづかいとしてもらっている」ことは、しっかり教えていくべきですし、そのお金があるからこそ生活ができているという感謝は大切だと思います。

後編では、どのようなことを意識して、おこづかい教育をすすめていけばよいか、お金の本質をおさえながらお伝えします。

以上

※掲載内容の無断転載を禁じます